

議員定数 52人を答申

平成14年2月19日、議長から議員定数について諮問を受けた議会運営委員会では、4月19日までの二カ月間にわたり七回の委員会を開催して調査を行い、4月22日に、本市議会の議員定数は現状維持の五十二人とするのが妥当であると議長に答申した。

答申の内容

本市議会の議員定数は、五十二人とするのが妥当である。なお、これに対して二人減員して五十人とすべきであるとの少数意見があった。

審議経過(要旨)

平成11年7月の地方分権一括法制定により議員定数の規定の見直しが行われる中、14年2月に市議会一党派から定数削減の要望書が議長に提出され、議長からの諮問を受けて本委員会では議員定数の検討をすることとなった。

今回の検討においては、議会制民主主義の根幹の問題という基本認識に立ち、市民傍聴を認め、オープンな議論の中で、市民にわかりやすく説明できる形で結論を導くこととし、市民は

今何を望んでいるのか 時代の变化をどうとらえるか 類似都市の議員定数や議会活動状況等の観点から調査を行い、意見交換を重ねた。

市民は今何を望んでいるのか

二団体から定数削減等の要望書が提出される一方、十の団体等から削減せず法定数に戻すべきとの要望書が提出された。これら要望書を参考に各委員が市民の声を聴取し、意見交換を行った結果、現在の議員数は必要の議員数は減らすべきだ、法定数の議員数が必要との三つの意見に集約された。議論の過程では、委員から、市民には定数の問題よりも議会の動きや各議員の考え等がわからないという思いがあり、積極的な情報公開や議会改革等の対応が必要、将来の定数見直し時には、パブリックコメントの活用や市民との意見交換会の開催などを検討しては、といった意見が出された。

時代の変化をどうとらえるか

平成10年に定数を二人減員し五十二人としてから四年が経過したが、その間、景気は低迷を続け、本市の行財政環境も厳しさを増すなど、社会経済情勢も変化してきている。

景気面の視点

景気により議員数を増減させるのはおかしい財政難の時ほど多様な市民意見

見を聞く必要性が高まる 定数削減よりも報酬や海外視察等の面で合理化を図るべき 率先垂範する意味で定数削減を行うべき、といった意見が出された。

ITの進展・市民参画の潮流

情報技術の進展により市民が市政参画できる場面が保障されてきており、定数は削減すべき、市民の声を聞くシステムはまだ不十分であり、議会には市政のチェック機能が求められており、現段階での定数削減は危険だ、ITの進展が市民の声を吸い上げることにつながるのか疑問だ、といった意見が出された。

類似都市の議員定数や議会活動状況等

本市の定数を考える目安として、類似都市の定数検討状況、



議員定数を検討(議会運営委員会)

議会活動状況、議会費・各種財政指標の状況などを調査し、比較検討した。委員から、類似都市の状況を見ても、本市が定数を削減する根拠は見当たらない、定数を二人減らしても議員一人当たりの人口は約一万二千六百人で熊本市より低い。より多くの市民の声を代弁すべき、議員一人当たり人口に論理的根拠はなく、他都市や本市の状況を総合的に考慮して判断すべき、議会の活動状況を市民に説明すると、そこまで頑張っているとは思わなかったという意見が多く、市民への情報が不足している、といった意見が出された。

委員会の異動

市議会広報調査特別委員会 (新) 委員 吉本 喜一 (旧) 委員 則武伸一郎

議会棟工事のお知らせ

委員会室の拡張工事が、9月20日(金)までの予定で行われます。ご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願いします。

次回定例会のお知らせ

9月定例会は、9月12日(木)から10月1日(火)まで開催の予定です。詳しくは議会事務局までお問い合わせください。

編集後記

青空に人道雲が見事な姿を見せています。さて、6月定例会では、合併・政令指定都市問題など市政の重要課題について活発な論戦を繰り広げました。市議会だより第二十四号では、これらの内容についてお伝えします。

なお、市議会広報調査特別委員会では、6月定例会終了後、秋田市などの先進都市を訪ね、今後の議会広報活動の充実に向けた調査を行いました。その成果を生かし、より一層開かれた議会とするよう委員一同努めてまいります。

よって、本委員会としては、岡山市議会議員の定数について、二人削減し五十人とする少数意見はあったものの、現状維持の五十二人とする結論に達した。